

北海道の現状と将来像

北海道の現状

- 我が国の食料供給基地。近年、食の輸出や外国人観光客も急増。
⇒世界と競争し得るポテンシャルを持つ「食」と「観光」を戦略的産業と位置付け、食と観光を担う「生産空間」を支えながら、「世界水準の価値創造空間」の形成を目指している。
- 全国よりも10年先んじて人口減少が進展。また、札幌圏への人口一極集中が進行。
- 最寄り都市までの平均距離が全国の2倍以上であるなど、本州とは距離感の異なる「広域分散型社会」を形成。
⇒一方で、北海道は全国に比べて高規格幹線道路の整備が遅れている状況にあり、北海道を除く全国の整備率が86%であるのに対して、北海道は61%（平成29年度末時点）。
- 冬期の道路交通は、地吹雪や雪崩等による通行止め、凍結路面や積雪による車線幅員の減少等により著しい渋滞が発生。
- 政府の地震調査研究推進本部により、千島海溝沿いの地震活動の長期評価が見直され（平成29年12月）、「北海道東部に大津波をもたらす巨大地震の発生が切迫している可能性が高い」と評価。
- 北海道新幹線の札幌延伸（平成42年度末予定）や道内7空港運営の一括民間委託（平成32年度予定）に向け、高規格幹線道路等の二次交通ネットワークの早期整備が急務。

等

地域の将来像

- 既存の地域における総合的なビジョン等をベースとして、人口、産業、土地利用、生活圏域、拠点開発プロジェクト等の地域の社会・経済の現状や見通しを踏まえた目指すべき将来像について、特に交通分野に関連のある内容について整理。

⇒今後、有識者からの意見聴取も踏まえ整理を進める（地域の将来像を含む『ビジョン』『計画』の案を作成）